

嵯峨天皇は、即位の翌年に起きた藤原薬子の変を経て権力を確立し、貴族をおさえて強い政治力をふるい、譲位した後も上皇として朝廷に重きをなした。その結果、この時期 30 年余りにわたって政治の安定した状態が続くこととなった。古代における律令国家や文化の変化の中で、この時期はどのような意味をもっているか。政策と文化の関わりに注目して、6行以内で説明しなさい。

809年 嵯峨天皇が即位する

810年 蔵人所を設置する **ア**

812年 この頃、空海が『風信帖』を書く **イ**

814年 『凌雲集』ができる **ウ**

816年 この頃、檢非違使を設置する **エ**

818年 平安宮の諸門・建物の名称を唐風にあらためる **オ**

『文華秀麗集』ができる **カ**

820年 『弘仁格』『弘仁式』が成立する **キ**

821年 唐風をとり入れた儀式次第を記す勅撰儀式書『内裏式』が成立する **ク**
藤原冬嗣が勸学院を設置する **ケ**

823年 嵯峨天皇が譲位する

827年 『経国集』ができる **コ**

833年 『令義解』が完成する **サ**

842年 嵯峨上皇が死去する

<問われていること>
律令国家や文化の変化の中での嵯峨朝の意味

<条件>
政策と文化の関わりに注目する

ア～サの内容について、グループ分けを行う。(政策 or 文化)

<Aグループ>

- ・該当するもの = **ア エ** (政策)
- ・共通していること = **令外官の設置**
- ※ 蔵人頭: 天皇の命令をすみやかに太政官組織に伝える。秘書官
- ※ 檢非違使: 京の治安維持
- ともに形式的な令の官制にかわり、政治や社会の実情に即して実質的な役割を果たす。

<目的・理由>

官制の再編を通して天皇權威の強化を図る。

<Bグループ>

- ・該当するもの = **イ ウ カ コ** (文化)
- ・共通していること = **唐風文化の隆盛**
- ※ 勅撰漢詩集 = 文章経国の思想に基づき、貴族の教養として漢詩文をつくることが重視された。
- ※ 風信帖 = 唐風の書が広まった。

<目的・理由>

貴族・官人に唐風の教養が要求された。

<Cグループ>

- ・該当するもの = **オ ク** (政策)
- ・共通していること = **儀式などの唐風化**

<目的・理由>

従来の風習を改め、唐にならった新たな朝廷の秩序を整備した。

<Dグループ>

- ・該当するもの = **ケ** (文化)
- ・共通していること = **学問の重視**

<目的・理由>

有力氏族に、明経道や紀伝道など唐風の学識が求められた。

<Eグループ>

- ・該当するもの = **キ サ** (政策)
- ・共通していること = **法制の整備**

<目的・理由>

官庁の実態にあわせて政治実務の便を図った。

嵯峨天皇の時代は、**令外官の設置を中心とした官制の再編を通して、天皇権力の強化** が図られるとともに

法制の整備が進んで、官庁の実態にあわせて政治実務の便

が図られた

また **儀式を唐風化して、新たな朝廷の秩序を整備する**

一方で、

貴族・官人には **漢詩文など唐風の教養**

や **儒教などの唐風の学識**

が求められ、

唐風文化が隆盛した。

こうした **唐風の政治制度や文化の積極的な導入は、伝統的な氏族的政治を変容させ、後の国風文化の前提となった。**